

2014・8・6

平田豪雨災害

発生：平成 26.8.6 早朝 平田フード前交差点冠水



発行：2015.3.12

平田地区自治会連合会

はじめに

平成26年8月6日の平田地区を襲った未曾有の豪雨災害で、お亡くなりなられた方、被災された方々に対しまして、心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げます。

平田地区自治会連合会としましては、8月6日早朝より、被災現場に地区会長とともに、駆け付け、脱輪した自動車の救出、通行止めの処置、浸水しそうな家への警告等、大雨のなか、連絡に走りまわりました。松山自治会の住民から家が浸かり避難するところがないとの依頼から、このような場合を想定して自主的に手を挙げていただいていた、ディアレスト岩国に8名の避難誘導する処置をとることが出来ました。

その後、土砂崩れ、大谷川の氾濫等の情報が入り、この緊急対策で山口県、岩国市に依頼を致しました。平田地区でのご婦人の行方不明事件が発生。警察、消防団と共同して自主捜索隊を組織する等、対応を迫られた時間が続きました。

8月9日には台風11号が岩国を直撃する可能性があり、2次災害の危険性があるため、平田地区自主防災組織の立ち上げと、土砂崩れ箇所の緊急処置を山口県、岩国市に再度お願いし、対応していただきました。このような未曾有の災害に初めて経験し分かった事は、平素からの災害への準備と訓練がいかに大事であるかと言う事が認識できました。

平成26年11月30日には平田供用会館で、市長列席の平田地区住民説明会が行われ、被害状況と対策について山口県及び岩国市より説明があり、活発な討議がされました。

従来から、平田地区の自主防災組織の強化を図ってきましたが、今回のこの経験を生かして、地域の安心・安全を更に推し進めて参りたいと思います。

この豪雨災害を後世に伝え、今後、類似の豪雨発生時、地区の皆様方の避難の指針としていただきたく、小冊子を作成しました。

小冊子の最後には、今回の豪雨のように短時間大雨時の各家庭での対応マニュアルを記載しています。ご参考としてください。

平田地区自治会連合会

会長 伊藤 正信

発刊によせて

平成26年度8月6日は早朝の一時間雨量が61mmを越える記録的な大雨となりました。

大風12号の影響で、前日からの雨とあいまって甚大な災害となりました。

平田地区では多くの被害を受け、なかでも、死者1名は深刻な災害として受け止める必要があります。被災当日、被災直後、被災後と各段階で拡大防止策、復旧作業が各レベルで行われました。

被災にあたっては、自助、共助、公助が三位一体となって機能する必要があります。どこを矯正してゆけばよいのか、本書は示していると思います。

今後、このような災害が再来することを想定しながら、対策を講じていく必要があります。我々のできることから、着実に実行していかなければなりません。相互に協力しながら、「災害に強い平田地区」構築をめざしましょう。

平田地区社会福祉協議会

会長 湯本 卓見

1. 発生概略

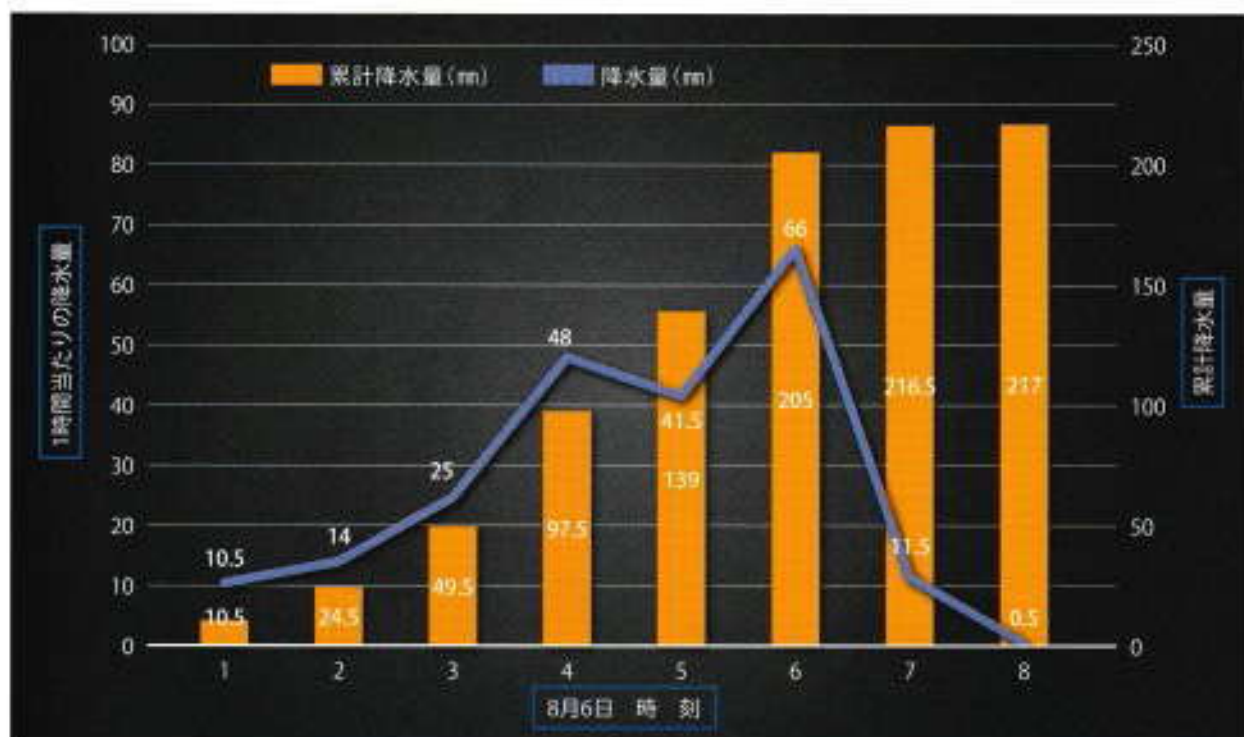
8月1日(金)から3日(日)にかけて台風12号は、東シナ海を北上して、4日には黄海で熱帯低気圧に変わった。

山口県では、台風や台風から変わった熱帯低気圧の影響で、南から湿った空気の流入が続き、岩国方面に大雨を降らす原因になったとともに、5日から台風11号及び太平洋高気圧周辺部を通じて南から湿った空気が流れ込んだため、山口県東部における大気が非常に不安定となり大雨をもたらしたものです。

(岩国市大雨・台風災害状況報告より)

下関気象台川西(岩国高校)の雨量計によると、下図のように、8月6日の0時から降り始めた雨が3時～6時の間が最も多く41mm～71mmと、どしゃぶりの雨でした。0時から8時までの累積雨量は217mmとなっております。

平成17年9月6日の台風14号で錦帯橋の橋脚が流れた時の川西の雨量計では、15時～21時までに192mm降っていますが、一時間当たりの最高雨量は46mmで、今回の雨量の方が多くなっていました。



(下関気象台・川西の雨量計)

4:05 岩国市防災メールにて土砂災害警戒情報発令

2. 被害状況

岩国市危機管理課資料 (2014.9.1 現在)

8月6日の豪雨災害による被害

区分	項目	岩国市全域	平田地区
人的被害	・死者	2名	1名
	・行方不明	0名	0名
	・重傷者	3名	0名
住家被害 非住家被害	・全壊	7棟	2棟
	・大規模半壊	6棟	2棟
	・半壊(床上浸水含)	141棟	31棟
	・床上浸水	10棟	1棟
	・床下浸水	316棟	54棟

3. 平田地区の浸水原因

8月6日未明、降った豪雨が一齐に大谷川に流れこみ、護岸の一部が崩壊し土砂が流出した。この土石により平田川に合流する出張所近くで河川が閉塞し、流下する雨水の大部分が越水となり、平田保育園方面に流出した。

一方、平田中央フード付近の排水は、平田川に排水する自然排水水路の系統と、平田川【かみあまち橋】近くにある平田排水ポンプ場で汲み上げる2系統ありますが、当日は自然排水系統が土砂崩れで一部閉塞し、大谷川よりの越水と相まって、排水能力が不足し、配電盤が浸かり電源が停止しポンプが稼働しなくなったことも重なり、平田中央フード交差点付近が冠水したものの。



4. 豪雨災害の記録

その1 大谷川の護岸崩壊

大谷川の氾濫で護岸及び道路が崩壊し流失したものの。



(岩国市河川課提供資料)

その2 大谷川の氾濫により大量の水があふれている状況

大谷川と大応川の合流直後の川の様子。川から水が溢れ住宅地に流れている。

車が橋に引掛かって、大谷川の水の流れを阻害している。



大谷川より平田川に合流する出張所近くの暗渠を、流出した土砂が閉塞し、ここから平田保育園方面に越水した。

大谷川よりあふれ出た多量の水が道路や住宅地を經由し福本商店前に溜まり、自販機を冠水させている。相当な浮遊物も流れている。



その3 越水が住宅地に流れている状況

平田保育園前道路が冠水しているところ。

保育園前を流れた大量の水が、平田 理容テ
ル横の市道を抜け中央フードの交差点に流れ
出ている。



その4 平田排水ポンプ場が冠水した状況 [ポンプ場：かみあまち橋近くに設置]

ポンプ場の電源盤が浸かっている。



(岩国市河川課提供資料)

冠水が収まり水が引いた時(8月7日夕方の写真)
ポンプの前にはストレーナーがついている。



8/7 16:29 撮影

その5 中央フード前交差点付近冠水

冠水は約1 m程度。交差点の南東からの撮影。



8/6 9:22 撮影

交差点の南西からの撮影。



その6 土砂陥落

平田2丁目中山自治会の市道の崖が高さ20 m、
長さ20 m程崩落し市道を塞いだ。



8/6 8:29 撮影

白井谷Sさん宅の裏山が崩落し、庭に土砂
が多量に流出した



8/6 10:23 撮影

5. 豪雨災害の復旧作業

その1 消防車による中央フード交差点の排水

消防車2台で汲み上げている。



消防ホースで平田川の〔かみあまち橋〕から排水させている。



国土交通省作業車も応援にかけつけ、排水作業を担った。



岩国市河川課提供資料

その2 中央フード交差点の排水完了

消防車による懸命な排水作業で、当日15:47に撮影した時は道路の冠水は、ほぼ解消された。



その3 平田1丁目Uさん宅裏山のがけ崩落による応急処置

平田1丁目の向山住宅の裏側の小川の側壁が崩落し、小川を塞いだため付近の数軒が床上浸水した。9日の台風11号にそなえ、パイプで雨水をバイパスさせる応急処置をしているところ。



その4 土砂の撤去（出張所近く）

8月7日の夕方には、大谷川の暗渠を閉塞させた土砂を9日の台風11号に備え、急ピッチで取り除いている。暗渠の下にもぐり砂利を回収していた。



その3 平田中学校生徒によるボランティア活動

8月7日の夕方、平田保育園近くの被災現場で、平田中学校生徒達が土のう袋に土砂を詰める作業、土のう袋を運搬する等のボランティア活動をしていた。生徒達はどろまみれとなって、頑張っていた。撮影中、生徒達の自主的な活動に目頭が熱くなる思いがした。



ボランティアに参加した平田中学校生徒達の声

【ボランティアに参加するという事】

平田中 サッカー部 2年生 作本 育海

僕達サッカー部は、8月に豪雨災害ボランティアに参加しました。正直、はじめは「部活したかったなあ」と思っていたのですが、いざ被災された場所に行ってみると、「同じ平田地区なの？」と思ってしまうほど衝撃的でした。

ボランティア活動は大変だったけど、自分達の力が少しでも役に立つと思うと、やってよかったと思いました。今後災害が起こらないで欲しいと思うけど、もし起きてしまった時は、積極的にボランティア活動に参加しようと思います。

【地域でつながる】

平田中 ハンドボール部 2年生 竹本 雄哉

8月6日の豪雨で、平田地区はとても大きな被災を受けました。平田中ハンドボール部は、地域の皆さんの災害復旧のお手伝いをする事になりました。僕達は日ごろから地域の方に支えられているので、今回は僕達が頑張る番だと思い、作業に取り組みました。

僕は今回の活動を通して地域のつながりを強く感じました。そして地域の方への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。

【ボランティア活動をして】

平田中 美術部 1年生 春名 夏帆

自分が住んでいる地域で大変な災害が起こると思っていなかったので驚きました。私達美術部員は被害のあった場所に行き清掃活動をしました。

土のうを作るのは重く大変でしたが、少しずつきれいになっていったので嬉しかったです。短い時間でしたが、少しでも地域の役に立てて良かったです。これからも地域のために活動していきたいと思います。

6. 被災され方の談話

その1 床上浸水して2階での生活を余儀なくされているTさんの談話



8月6日の夜は2階に寝ていたが、ものすごい雨でバケツをひっくり返したようでした。

朝5時半に朝食を済ませ、奥さんが洗濯中に家の裏の外で何か動く音がするので、勝手口のドアを開けようとしたら、ドアから多量の水が入ってきました。これは大変だと、すぐドアを閉めました。その後、ドアは水圧で開けられなくなりました。

家の後ろに流れている小川の側壁の土砂崩れで川が塞がり、水が宅地にあふれ出た事による被害でした。

その後1～2分で家の床上まで水が入ってきて、結局床上19cmまで浸水し、一階の畳、布団、その他の家具が濡れました。

その後玄関のドアを開けて外に出ようとしたのですが、簡単には開けられず、無理やり開けて外に出て流れて行く物を片づけました。今日現在、畳を敷いていた部屋はまだ乾いていないため、2階で寝起きしています。

9日には台風が岩国に接近する予定だったため、再度、床上浸水を警戒していましたが、市から派遣された業者が8日中に応急処置をしてくれて助かりました。感謝しております。

その2 家の近くの豪雨災害現場を体験した平田3丁目 国重 守さんの談話



その日の朝方の豪雨は、経験したことが無いほどよく降ると思って寝ていました。

朝、起きて外に出てみたら、美容院の前の川に掛かった橋に水がバンバンと跳ね上がっており、大変な事になっていると感じました。みるみる間に川が溢れ玄関先に敷いてあるゴムマットに水が入ってきて波打ちはじめ、母屋と納屋間の通路に水が入り込んできました。

これは一大事、何とかしなければと鉄の棒を持って美容院前の橋の欄干の上から、暗渠を詰まらせている石類を流そうとしましたが、近所の方から「無理をしてはいけん」と注意され、自分も、大きな石がありとても解消出来ないと思い諦めました。付近をよく見ると、目の前のAさん方のブロック塀が倒れており、これも川に流れ込んだのではないかと思います。

一方、供用会館のそばを流れている小川も、満水となり水がオーバーして道路が川になっていました。

大正13年に大水が出た際にも私の家が被害に合い、曾祖母が流されてタンスにつかまって瀬戸内海で浮かんでいたところを助けられたと聞いています。

当時の大谷川は小さな小川で場所も違っており、この場所から上は、一面田んぼでした。山の上から大水が流れて田んぼがすべて水であふれたため、私の家が流されたと聞きました。

その後 昭和20～21年頃 河川改修でストレートな川になり、川幅も広がりました。私の家は現在の大谷川をまたぐような位置にあったので、移築して現在の場所になりました。

今の大谷川本流は平田川に直角に合流しているため、大水の時は吸い込まれにくい構造になっています。隣の供用会館のそばを流れる川も同様で、この構造を直さないとまた同じ事が再発すると思います。大谷川は勾配が急なため、大水になると水が巨大なエネルギーとなります。道路の改造も含めて川の岸壁をコンクリート化して欲しいと思います。

7. ゲリラ的集中豪雨に対する心構え

(岩国市土砂災害ハザードマップより抜粋)

8月6日の豪雨は夜明けの暗い中、あれよあれよと言う間に大きな被害が出ました。今回のような異常な大雨では、場所にもよりますが、まずは我が命、我が家族を守る事を第一に考え行動してください。

- ・一般にバケツをひっくり返したような大雨は一時間に30～50mmです。
- ・雨が滝のように降り、先が見えない時は、一時間に50mm以上とされておりま

1. 平素から家族で土砂災害、地震、大津波が発生した場合の対応方法を打ち合わせておいてください。
2. 岩国市土砂災害ハザードマップが発行されていますので、我が家は危険な場所なのか否か、確認しておきましょう。
3. 積極的に雨量情報、予報、警報等の情報を入手しましょう。
4. 携帯メール、パソコンで気象情報は確認できます。また岩国市からも気象に関する注意報、警報が出ますので、常時入手するようにしましょう。

8月6日の大雨では4：05に岩国市防災メールにて土砂災害警戒情報が発令されています。携帯等でこの警報が自動的に入るようにされている方は、お気づきだと思います。

5. 大雨の警報が出た場合、あるいは異常を感じたら、安全な場所に避難するようにしましょう。
6. 避難が遅れ、家から出られない場合、最も安全な場所に移動してください。



【編集を終えて】

今回の平田豪雨災害小冊子を発行するにあたり、平田地区の皆様方から貴重な写真、体験談をご投稿いただき、誠にありがとうございました。

本誌を通じて平田住民が初めて体験した豪雨災害を後世に伝えると共に、今後、このような災害に対して、いち早く対応でき、平田の皆様方の安心・安全の向上の一助になればと願っております。

編集者

(平田地区自治会連合会会長：伊藤正信、同副会長：大屋節雄)

(平田地区社会福祉協議会会長：湯本卓見、同広報部長：村中信幸)



平田地区自治会連合会